

福岡県北同窓会

学術講演会

明日から使える歯科漢方

石本 圭(16期)

平成23年4月23日(土)午後4時

より、北九州市のホテルクラウンパレス北九州にて、福岡歯科大学福岡県北同窓会の第32回定期総会、学術講演会、懇親会が開催されました。東日本大震災後、1ヶ月あまりしか日が経ってないにも関わらず、多くの先生方に参加して頂き、誠に有り難うございました。

学術講演会には、講師に福岡歯科大学18期卒、北九州市小倉で開業されている重住大乗先生をお招きして「明日から使える歯科漢方〱不定愁訴、神経痛、歯科心身症(口臭症)、顎関節症の対応など」という演題で講演して頂きました。主な講演内容としては、我々の歯科領域の診療において、西洋医学では診断治療しきれない不定愁訴、神経痛、不安口臭症などの壁に当たった時、多少の東洋医学的な診断治療を行うことができれば症状の寛解、改善はそんなに困難な事ではないというもので、その中でも今回は、口臭に不安のある不定神経症、神経痛、などの症例を交えながら日常臨床で明日から即使える漢方処方、ハリ治療などについて詳しく講演して頂きました。今回福岡県北同窓会では、著名な先生を招いてではなく、当同窓会の中で、現在頑張っている若手の同窓生に講演をして頂く

と考えました。歯科の日常臨床では、まだメジャーにはなっていませんが、重住先生の東洋医学への着目には、多くの先生方が興味を示し、参加者も50名ちかく集まり、あつという間の1時間間で学術講演会は大盛況のうちに終了致しました。

福岡県北同窓会は、韓国慶熙大学校歯科大学同窓会仁川支部と国際交流を行っており、今年も当同窓会総会懇親会出席の為、4名の先生に來日して頂きました。私も去年訪韓し、数件の歯科医院を見学させて頂きました。韓国の歯科医療のレベルに驚かされました。今後アジアでの学術の発信基地の一つになれるよう努力していきたいと思えます。

重住大乗先生にはご多忙の中、貴重な講演をして頂き、誠に有り難うございました。



卒業生 NOW

この1年

水流 裕二郎 (3期)

同窓生の皆様、如何お過ごしでしょうか。

今年は、大震災、ゲリラ豪雨と日本にとって大惨事の年となりました。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

私の住む小林市でも、1月に新燃岳の大噴火が起き、空振と噴石の恐怖を味わいました。

同窓生から頂いた見舞いの電話やメールには感謝感激でした。幸い大した被害はありませんでしたが、また何時噴火するか解らない状況で、小学生もヘルメットを被っての登校が続いています。新燃岳は宮崎と鹿児島との県境にまたがる霧島連山のひとつで、隣に高千穂の峰があります。龍馬伝で、天の逆針を突き刺すシーンがあった所です。(これがマグ



マを刺激した?) 焼酎霧島のラベルにもなっていますが、登山の名所で、私も噴火の1ヶ月前に登りました。40歳から、マラソンやトライアスロンに挑戦した事もありましたが、目先を変えて、山登りを始めようと思ったのは自然を満喫しながら健康にも良く、山ガールに出会える期待もちょっと。しかし、噴火で一帯が立入禁止となり、霧島縦走が実現できていません。そのストレスからか最近「中年うつ」かと思う事も。災害の津波と寄る年波には勝てないと実感した年でした。そんな中、尾崎教授昇進祝賀会を兼ねた3期生の同窓会に出席できた事は、久々に過ごせた楽しい時間でした。還暦まであと5年。次の同窓会も楽しみにしています。



同窓生からの手紙

福岡県西同窓会の学術事業について

福岡県西同窓会 学術常務理事
本部同窓会 学術理事

枡 浩一 (3期)

福岡県西同窓会(以下、西同窓会)の学術事業は学術講演会と小歯学懇話会を開催しております。西同窓会は大学のおひざもとで、大学に患者さんを紹介する事が多いため、大学との関係を重視しております。それで学術講演会の講師には福岡歯科大学の先生をお願いしております。教授に就任される先生は他大学出身の方が多く、どのような分野が得意なのか等の情報が少ないので学術講演会の講師をお願いし、講演後に懇親会を行い西同窓会として親交を深めております。

小歯学懇話会はスタディーグループの勉強会の様な雰囲気、すぐに役立つような身近なテーマで行っております。最近では医療保険関係、ファイバーポストコアの作製法、口腔内写真の撮り方などを行いました。

また本部同窓会の学術からのお知らせもさせていただきます。11月6日に行われます本部の第25回学術講演会の案内が同窓会会員の皆様が届いていると思います。今回はインプラント治療で高名な林 揚春先生に「患者が望むインプラント治療について」と、関西大学教授で弁護士の若松陽子先生に「実例をもとに医事紛争における注意点と解決方法」をご講演していただきます。若松先生は歯科の医事紛争に非常に詳しい方で、福島第一原発事故のように事故を100%防ぐ事は出来ませんので、それに備えておく事も大切かと思ひ企画しました。是非ご聴講をお願い致します。